

当面のスローガン

- あいつぐ差別糾弾闘争を強化
- 全学校で人権・同和教育を!
- 全自治体で同和行政を!
- 西日本夏期講座の成功を!



解放新聞社山口支局

〒753-0074 山口市中央1-5-3
 TEL 083-923-2303
 FAX 083-921-1919
 http://y-kaihou.jp
 編集発行人 松岡 広昭

「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」中国5県の人権・同和教育のさらなる推進をめざし「」をスローガンに、中国ブロッ

逆境だからこそその仲間

中国5県同教が結集

ク人権・同和教育研究大会が10月11日、岡山県倉敷市立玉島北中学校で開催され、同和教育に取り組み教職員や運動関係者など50名が参加した。主催は岡山県人権

教育研究協議会と、鳥取、広島、島根、山口の中国5県の人権・同和教育研究協議会である。中国5県の県同教が一同に会しての研究大会は、今年が初

めでの試みであり、試行錯誤の中で開催された。開会あいさつで、岡山県人権教育研究協議会の佐川会長は、岡山県の財政危機により県の人権教育予算が8割削減・見直しされている現状を報告し、「逆境の中であつながら仲間だからこそ意味があり、力になる」と今大会の意味を訴えた。開会行事のあと、

二つの分科会に別れて、広島、山口、鳥取、島根の各県から実践報告がおこなわれた。

第1分科会では「A(障害のあるムラの子)のこと」と題して竹原市立竹原小学校の吉岡秀喜さん、「萩市結婚相談所差別事件から学ぶ」と題して山口県人権啓発センターの川口泰司さんの二人が実践報告をおこなった。第2分科会では、

「識字のLHRを通して、『自らの課題』を考える同和教育をめざして」と題し、鳥取東高等学校の福田和博さん、「今日休んだら、明日は学校に来られんようになるけえ」寄り添うこと、つながること」と題して、益田市立東陽中学校の寺戸和泉さんより実践報告がおこなわれた。質疑では、各県の実践報告に参加者ひとり一人が、自分の

実践と意思を返して討議を深めた。今回は中国5県であつたが、各県の人権・同和教育の違いはあるものの、子どもたちや、部落を取りまく厳しい差別の現実には変わらなかつた。「逆境の中であつながら仲間だからこそ意味があり力になる」という有意義な研究大会となった。次年度も引き続き、開催される予定である。



夏期講座の成功に向けてあいさつする、友永所長

夏期講座の成功に全力を

来年7月9日、10日に山口市で開催される第34回部落解放・人権西日本夏期講座の第1回実行委員会が、9月24日、山口県労働者福祉文化中央会館におこなわれ、夏期講座の成功に向けて、本格的に動きはじめた。

実行委員会は、部落解放・人権研究所と現地実行委員会と構成されている。現地実行委員会には、連合山口をはじめ、山口県平和運動フォーラム、山口県人権・同和教育問題にとりくむ宗教者連帯会議、山口県人権・同和教育

研究協議会、部落解放同盟山口県連で構成されている。主催者の部落解放・人権研究所をはじめ、地元の現地実行委員会の代表が参加した。主催者を代表して、友永健三・部落解放人権研究所所長よりあいさつがあり、

第1回実行委員会では企業や行政、各種団体、市民などより広範な人たちに参加してもらえよう、講座の内容や今後の動きなどについて協議が行われた。最後に、全員で西日本夏期講座の成功に向けて、全力で取り組むことを確認した。



地元を代表して、東国原英夫・宮崎県知事があいさつ

現地実行委員が始動

「世界人権宣言60周年を機に、平和・反差別・人権を確立する実践をさらにすすめる」と題し、宮崎県知事東国原英夫氏があいさつした。実行委員会の発足式は、10月3日から5日にかけて開催され、全国から5000人が参加した。

初日の全体会では、「地方財政の現状と課題」をテーマに奈良女子大学名誉教授の澤井勝さんより記念講演が行われ、「共に差別をなくす取組みを」と題し、部落解放同盟宮崎県連の飯谷龍一が地元特別報告をおこなった(2面)。2日目は、9つの分科会に別れ、部落解放へ向けた実践と研究について議論を深めた。

宮崎で第42回全研

第60回全国人権・同和教育研究大会(ご案内)

日時 11月29日(土)~30日(日)

場所 奈良市中央体育館 他

お問い合わせ 部落解放同盟山口県連合会 TEL083-929-2303